

Forest 通信 8 H30

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.354

巻頭
Photo

高尾山の生きものたち ミドリヒョウモン (タテハチョウ科)

花の上でオレンジ色の翅が開く。花と翅の色合いが重なり、とても華やかだ。ヒョウモンチョウの一種で、比較的よく見るミドリヒョウモンだ。

ヒョウモンチョウの仲間は、翅の表面が橙色と黒斑のヒョウ柄模様で、ミドリヒョウモンは後翅裏側に緑色を帯びた筋がある。オスは、黒斑が少なく前翅に4本の黒い線があり、メスには線がない。森林やその周辺に棲み、成虫は6~9月に発生し、冬は卵か幼虫で越冬する。春には幼虫がタチツボスミレなどスミレ類を食草として育つ。

高尾の道を歩いているとよくこのチョウと出会う。

それは、食草のスミレ類や夏や秋に吸蜜する花が多く、植物が豊かなおかげだろう。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.35

ケヤキ (ニレ科)

高木の落葉広葉樹で、本州以南の日本各地、朝鮮・中国に分布し、高尾でも広く見られます。古代から「けやけき(すぐれた)木」といわれたのが名の由来とされています。

木理は通直、肌目は粗く、強靱で狂いが少なく、重硬で加工性はやや劣りますが、時に玉杓、如輪杓(じょりんもく)などの美しい杓理を形成します。国産材の中で、針葉樹の代表がヒノキとするなら、広葉樹の代表はこのケヤキを置いて他ありません。

用途としては、古くから建築材、家具材、建具材、造作材として幅広く用いられています。特に寺社建築に重用され、天井、床木、大黒柱が代表的です。その他、器具材、彫刻材、楽器材、民芸品、船舶、装飾用突板、太鼓の胴、臼、杵、お盆、椀など、現在は美しい木目を利用した装飾的な部材としても多く利用されています。

ケヤキの材には、赤と青があり、赤は良いが青は材質が悪いと材木関係者は区別してきたようで、「春先の新芽が赤い樹は良い木」と木材屋さん聞いた

ことがありますが真偽のほどは定かではありません。他に「ホンゲヤキ」と「イシゲヤキ」などの区別があるようですが、樹種としての明確な区分は難しく個体差が激しい樹木のようなです。

枝が帚状に広がる美しい樹形から、公園や街路樹などにも広く植栽されており、特に武蔵陵墓地参道のケヤキ並木は気高い雄々しさを感じさせてくれます。(皿)



ケヤキ並木



特徴的な美しい木目(杓)

公募イベント

森林カレッジⅡ

森に学ぶ～森づくり、ことづくり、人づくり

7月7日（土）に森林カレッジⅡが森林ふれあい館および大平国有林において開催されました。当日は雨上がりの曇りとなり、下草刈りにはますますのコンディションです。

午前中は、東京農業大学教授の宮林茂幸先生による「森に学ぶ～森づくり、ことづくり、人づくり」の講義です。「農林業を体験することで人間が自然の一員であることを学び、社会性をはぐくむ」ことや「農林業をきっかけとして地域社会の伝統を見直し、活力ある社会を取り戻すことが大切」といった内容に、参加者の皆さんは真剣に聞き入っている様子でした。



和やかな雰囲気の中進められた講義

午後からは5班に分かれての下草刈りです。ほぼ全員が大きな下刈り用の鎌を持つのは初めての体験とあって、緊張しながらのスタートです。まずは鎌を研ぎ、いよいよ現地に向けて出発しました。今回は拠点となる森林ふれあい館から徒歩で約20分の距離を移動しての作業です。到着した時はすでに汗びっしょりの方も多く、急傾斜の林地での作業はまさに「本物」を体験できたのではと思います。そして全員が作業を無事に終了して閉会式のなかで数名から「未来の子どもたちに森林を残していくために何をすべきか考えさせられた」「森林の保全が社会づくりに大きな意味を持つことが理解できた」「短時間の作業だったが、林業の大変さを体験できた」といった感想を頂きました。

年4回のプログラムも中間点を過ぎて後半戦へと折り返しますが、今後も参加者の皆さんに充実した学習と体験の場を提供していきたいと思ひます。(磯)



下刈り用の大きな鎌を研ぐカレッジ参加者



作業方法と安全対策の説明を受けます



「これはきつい！」
暑い中、防蜂網を装着しての作業



イワタバコ

森林教室

墨田区 両国幼稚園

7月9日（月）、両国幼稚園の園児58名が来所し、木工クラフト（ぶんぶんごま作り）と丸太切りを体験しました。

クラフトは、木材の輪切りに思い思いの絵を描き、紐を通して完成。個性豊かなぶんぶんごまができました。早速、ぶんぶんとかま回しをする園児もいました。

続いては丸太切りに挑戦。最初は鋸（のこぎり）に慣れないため職員が手を添えて手伝いましたが、コツをつかんだ2枚目は上手に丸太を切り落としていました。

また、丸太切りのできた鋸屑に興味津々の園児もあり、かき集めて珍しそうに触っていました。

まさに「酷暑」と呼べる一日でしたが、皆さん暑さにも負けず無事終了。

感想を尋ねると「もっと丸太切りしたい」「模様がきれい」との声が聞かれました。

また来てくださいね。（高）



来所した園児の皆さん



一生懸命切りました

森林教室

江東区 さんいく保育園

7月13日（金）に、江東区さんいく保育園の園児10名と先生4名が、気温34度と厳しい暑さの中、午前中に高尾山頂まで登山をして、午後からクラフト作成と丸太切りを体験するために当センターを訪れました。

登山で疲れたようで、到着後、まずは水分補給。ひと休みした後、ヒマワリのタネを使ったペンダント作成にとりかかり、木工ボンドを上手に使いながら素敵な作品ができました。

続いては丸太切りです。職員が手を添えて手伝いながらの丸太切りでしたが、あっという間に全員が3枚の輪切りに手にし大喜びでした。もっと切りたいという声上がる中、先生が丸太切りに挑戦すると、園児からは大きな声援があがり、声援に負けじと一生懸命に鋸を引く姿は、なぜか園児より楽しそうに見えました。

短い時間でしたが、みんな満足したようで口々に「また来るね」と言いながら元気に帰って行きました。（谷）



じょうずにできました



丸太切りはたのしかった！

森と人のネットワーク 自然観察会（Ⅱ）

7月8日（日） 週末の天気予報が雨予報だったので、当日の天気が心配でしたが、土曜の朝から晴れて、日影沢の朝の気温は20℃と川遊びには良い状況になりました。

日影沢林道で参加者37名に対して開始時の案内を始めるところに、沢の方から一人の男性が・・手に網、水中眼鏡、足ひれの姿で現れたのは、本日の講師「森の遊び人」こと山田陽治先生。

午前中は林道入口からキャンプ場までの林道沿いを約1時間かけてゆっくり歩きながらの自然観察会を実施。

入口付近では、葉が甘い香りのするカツラがお出迎え、ちょっと変わった葉の真中に花がさくハナイカダや、この時期日影沢で多く見られるカタツムリのミスジマイマイ、葉の中に卵を産み、葉を丸めて落とすオトシブミなどをじっくり観察しました。体の模様がそれぞれ違うヒシバッタを捕まえ、その違いを観察したり、アリジゴクに落ちた虫が食べられる様子の観察や、虫がつかめない親子に、大きなナナフシに触ってもらい虫の感触を確かめてもらいました。また、冬虫夏草のカメムシタケや、ザトウムシとクモと昆虫の体の違いを観察しました。

キャンプ場での昼食の後、午後はキャンプ場脇を流る沢に入っの水生生物の観察会を実施。

1時間程度、各々が網と容器を手に沢に入り、沢蟹、蛙、ヤマメ や ヤゴ、カゲロウ、ヘビトンボ等の水生昆虫を採取した後、キャンプ場に戻り、大きな容器に種類ごとに仕分けをしてミニ水族館をつくり、講師の山田さんよりそれぞれの生き物についての説明をしていただきました。

参加した親子には、山田さんの監修の下で日影沢の自然、生き物を堪能していただき、満足していただいた様子でした。

採集した生き物はすべてリリースし、生き物の保護に努めています。

（写真・文 特定非営利活動法人森と人のネットワーク 泉 和弘）



キャンプ場での集合写真



ナナフシモドキを触る親子



ジャコウアゲハの幼虫



ミスジマイマイの子供

編集後記

極端に短かった梅雨。その後続く猛暑、酷暑の日々、皆様いかがお過ごしでしょうか。

氷菓子も売れすぎて販売休止となる商品が出るなど異変が続いています。

高尾山も都心よりは涼しいとはいえ、暑いことに変わりありません。登山や森林散策などにおいても水分補給をお忘れなきようお願いします。

Forest 通信 NO.354

発行__林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>